

大会参加方法

①大会参加を申し込む

下記URLもしくはQRコードから、案内に記載の申込方法に従って、参加申し込みを行ってください。

申込締切:10月5日(火)



②参加者専用ページ(マイページ)のご確認

参加者専用ページ(マイページ)から、登録情報に間違いがないかご確認ください。

マイページは大会情報の発信や資料データ配布等が行われるプラットフォームとなります。

大会資料データ配布開始時期
は、大会一週間前(11月8日)
を予定しています。



③動画視聴・大会参加

参加者限定で動画を公開するにあたり、参加者それぞれにアクセスキーをご案内します。このアクセスキーカー動画の視聴、大会にご参加ください。

令和3年度 第9回障害者支援施設部会 全国大会（北海道大会）申込HP

<https://gtc2.knt.co.jp/kntfront/convention/CON10010.xhtml?t=T2000379818>



大会に関するお問い合わせ先（大会事務局）

一般社団法人北海道知的障がい福祉協会（担当／薮・東海林）
〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2. 7
電話：011-271-0228 FAX：011-271-4202

大会申込に関するお問い合わせ先

近畿日本ツーリスト北海道 札幌法人旅行支店（担当／松本・中林・高場）
〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西2丁目2-1
電話：011-251-0011 FAX：011-251-3630

近畿日本ツーリスト

令和3年度 第9回障害者支援施設部会 全国大会北海道大会 開催要項

大会テーマ

『権利擁護の視点から支援の質を考える』 ～コロナ禍において重度高齢化が進む 障害者支援施設に問われるものは～

障害者虐待防止法が施行された後も、障害者虐待はなくならず、とくに障害者福祉施設従事者等による虐待のなかでも、入所施設における虐待がもっとも多くなっているのが実情です。一方では、入所施設従事者は、支援現場にひそむさまざまリスクと向き合い、煩雑化する業務をこなしながら、重度化・高齢化が進む利用されている方々に懸命に支援を提供しています。高い専門性を獲得するために研鑽を積むことが求められていますが、しかしその根底には、確固とした倫理観、人権擁護の意識がなければならないはずです。

また、2020年初頭から現在に至るまで新型コロナウイルス感染症の流行によって、社会には不安と疲弊感が募っています。社会の矛盾や不安の矛先がいわゆる「社会的弱者」とされる方々に、差別や排除として向けられやすいことは、これまでの歴史からも否定しがたい事実です。

こうした時代だからこそ、私たちの支援の質が問われています。単に支援の知識や技能にとどまらず、障がいのある方一人ひとりの尊厳を守る強い意志が私たちに必要であり、その上に豊かな個別支援が展開されるものと考えます。時代は変われども、大切にしなければならないものがあります。今大会は、そんな支援の本質に立ち返り、多様な主体が共に生きるとはどういうことなのかを探り、支援の質の向上につなげる研修会にしていきたいと思っています。

日 時	令和3年11月15日（月）～11月28日（日）（動画配信期間）
会 場	WEB開催（動画配信）
主 催	公益財団法人日本知的障害者福祉協会 障害者支援施設部会 一般社団法人北海道知的障がい福祉協会
定 員	制限なし
参 加 対 象	障害者支援施設、障害関係事業所等の職員並びに関係者等
参 加 費	会員施設 1人 6,000円 非会員施設・その他（家族等） 1人 7,000円
申込締切	令和3年10月5日（火）

※収録した動画を限定公開仕様にて配信します。参加者は視聴期間中、いつでも、またくり返し動画を視聴することができます。

開会式 (15分)

挨拶：日本知的障害者福祉協会 会長 井上博

挨拶：日本知的障害者福祉協会障害者支援施設部会 部会長 榎本博文

基調講演 (90分)

テーマ：『なぜ人と人は支え合うのか？』

講師：渡辺一史氏 (ノンフィクションライター)



プロフィール

1968年名古屋市生まれ。北海道大学文学部中退。筋ジストロフィーの重度障害者と介助ボランティアの交流を描いた『こんな夜更けにバナナかよ』(文春文庫)で大宅壮一ノンフィクション賞、講談社ノンフィクション賞を受賞、2018年には大泉洋さん主演で映画化され話題となる。他の著書にサントリー学芸賞を受賞した『北の無人駅から』(北海道新聞社)、相模原障害者殺傷事件などについて論じた『なぜ人と人は支え合うのか』(ちくまプリマ一新書)などがある。札幌市在住。

実践発表 (60分)

北海道地区：「一緒に生きる～コロナ禍の支援を通して気づかされたこと～」

社会福祉法人札幌緑花会 松泉学院 支援課長 武藤貴宏氏

中国地区：「障がい者の権利・人権を守る取り組み

～倫理綱領作成とその後の展開～」

社会福祉法人ももぞの学園 ももぞの育成園

生活支援員 池田真季氏、松元優太氏

シンポジウム (120分)

テーマ 『障がい者の人権を守り、共生を実現するためには何が必要か？』

新型コロナウイルス感染症のパンデミックという非常事態が日常化するなかで、コロナ禍が社会に分断と差別をはびこらせるものになるのか、それとも、だれもが大切にし合い共に生きる社会を創りあげるのかは、私たちの態度、姿勢に掛かっているのではないか？ シンポジウムでは、利用者的人権を守り、虐待を許さない入所施設のあり方、支援の質の向上について考えるのはもちろんのこと、多様な主体が共に生きるとは？ 人が人を支えるとは？ —— そうした人権、権利を理解する土台にまで問題を掘り下げて学びを深めたいと考えています。

シンポジスト



古地順一郎氏 北海道教育大学函館校准教授

カナダ留学後、モントリオール市役所調査官、在カナダ日本国大使館専門調査員を経て現職。

カナダでは移民政策・多様性管理政策を中心に研究。帰国後は、函館・道南地域で多様性を活かした地域づくりに向けた研究・実践を行ない、2018年からは「レインボーカミングプロジェクト（RHP）」のメンバーとして、LGBTQ+の当事者が自分らしく暮らし、自己実現できる地域づくりに取り組んでいる。



松原正子氏 障害者支援施設部会四国地区代表／ウンドヒル施設長

藤井学園寒川高等学校養護教諭を経て、自閉症児・者を持つ保護者の有志が集まり、幾多の困難を乗り越えて2004年（平成16年）に社会福祉法人ポム・ドパン 障害者支援施設ウンドヒルを開設。ウンドヒルでは、少人数グループ（ユニット）による生活を通じて、個々の生育過程や本人の障がい特性、個性を大切にし、日常生活や作業活動の支障となっている原因を探りながら、とくに支援の難しい自閉症の知的障がい者の自立支援を目指している。

平成27年度より、日本知的障害者福祉協会障害者支援施設部会四国地区代表。知的障がい者福祉従事者の立場と同時に、自閉症の息子（障害程度区分6）をもつ親の立場から、継続した日々の関わりをコツコツと続けている。



榎本博文氏 障害者支援施設部会長／ひまわりの風施設長

ロケットの打ち上げ基地や、安納芋の産地である鹿児島県種子島西之表市出身。愛知大学卒業後、特別支援学校に勤務時に、保護者を通じ障害福祉と出会い、社会福祉法人ひまわり福祉会に入職。法人内の施設にて、知的・身体障害者の支援員として従事。平成18年度から施設長として、相談支援、就労支援、生活支援に従事。平成28年度から東海地区会代表として障害者支援施設部会に参画し、平成30年度から障害者支援施設部会長に就任、現在に至る。

進行

祐川暢生氏 障害者支援施設副部会長/社会福祉法人侑愛会総合施設長

閉会式・次期開催地区挨拶 (15分)

挨拶：北海道知的障がい福祉協会 会長 遠藤光博

次期開催地区挨拶：大阪知的障害者福祉協会 会長 松上利男氏